



ミュンヘン便り

～007～

先日、知り合いのイタリア人弁理士Mr. Gがミラノからやってきたので、同僚二人と共に夕食を共にしました。食の国イタリアからの客人をもてなすために、骨太のバイエルン料理を避け、こじんまりとした居心地の良いフレンチレストランでの夕食となりました。

フレンチをゆるゆると食べながら、Mr. Gは「僕はペーパーDの試験委員なんだ」と言いました。ヨーロッパ弁理士試験には4つの部門、ペーパーA, B, C, Dがあるのですが、彼はそのうちのペーパーD（法律部門）の試験委員であると言う意味です。ちなみに、ペーパーAはクレームドラフティング、ペーパーBは拒絶理由通知への応答、ペーパーCは異議申立です。彼が担当するペーパーDの場合、その中にはさらに2つの小部門D1, D2があります。ペーパーD1は、事例形式の小問題8～10個を3時間で解く試験です。ペーパーD2は、A4で7～9ページに渡って記載されている事例問題を、4時間で解く試験です。



4部門のそれぞれの問題は、コミTEEと呼ばれる異なる委員会により作成されます。各委員会は、EPO（ヨーロッパ特許庁）の審査官・審判官と各加盟国の弁理士とで構成されます。委員会を構成する委員の数は、部門により異なります。Mr. Gは、ペーパーD2の委員会に10年以上所属しており、そこには現在12人の委員が所属していて、彼はそこで議長をつとめているとのこと。

各年の試験問題は、上記ペーパーD2の場合、委員会内の委員の誰かが一人で作ります。7～9ページに渡って書かれている問題文には様々な情報が含まれており、これらの情報の断片がジグソーパズルのようにぴしっと整合するように作られています。問題作成者は、問題文だけではなく、模範解答も作ります。模範解答を作ることで、問題文の不具合に作成者が気づくことができるからです。この問題文と模範解答とを一人で作成するのに、2週間ほどかかるそうです。作成された問題には、委員会の委員全員がまずチャレンジし、その過程で気づいた不明瞭な表現や不具合を話し合いながら修正していきます。

「僕も一度だけ問題を作ったんだよ」。Mr. Gは言いました。「僕の問題は、ジェームズ・ボンドだったんだ。」「！！！」それは私が受験勉強中に2000年からの過去問を全てやった中で、一番お気に入りのペーパーD2の問題でした。その一部をご紹介します。

「我々は、UKに拠点を有するテキスタイル及びスポーツウェアメーカーである。我々の子会社ショーン絶縁体(株)は、自動車及び航空機用の絶縁パネルの製造メーカーである。以下の問題について、あなたのアドバイスを頂きたい。

2年前、暖かいスポーツウェア用の新繊維を開発中に、我々はポリマーB、Aからなる新たなポリマー化合物B+Aを開発した。・ ・ ・前記技術及びその関連技術は、ショーン絶縁体(株)に移転された。2005年9月16日、ショーン絶縁体(株)は、このポリマー化合物B+Aと、そのポリマー化合物からなる絶縁シートとを開示及びクレームするUK出願を行った。・ ・ ・

我々の元で働いていたMs.マニーペニーは、独自にポリマー化合物(BとZ族のポリマーとを含む)をテキスタイルにするプロセスを独自に研究した。・ ・ ・彼女は、2006年5月に我々の会社を辞め、自分のビジネスを始めた。

驚くべきことに、我々は最近、競合他社であるアイルランドの会社ゴールドフィンガー(株)から、彼らのEP特許出願EP-Goldを侵害しているとする警告状を受け取った。・ ・ ・」

問題文に登場する「ショーン(株)」の社名はもちろんショーン・コネリーから。「ゴールドフィンガー(株)」は、ショーン(株)の発明を冒認出願する悪役として問題文に登場しています。名前の由来は007シリーズの一つ「ゴールドフィンガー」の悪役から。「マニーペニー」は、おなじみイギリス諜報部の優秀な秘書ですね。

「その問題、とてもよく覚えていますよ。問題作成者のユーモアを感じました。」私はMr. Gに言いました。「そう?」、Mr. Gは嬉しそうに続けました。「僕の問題で初めて、

EPC第83条(実施可能要件)をペーパーD2の論点に盛り込んだんだ。」「・ ・ ・」この点は、残念ながら私の頭に全く残っていませんでした。道理でペーパーDの点数が悪かったわけです。

昨年11月、最新のジェームズ・ボンド映画がミュンヘンで上映されていました。ジェームズ・ボンドシリーズはドイツでもなかなか人気があります。ドイツでは、映画館やテレビで上映・放映される外国語映画は、ほぼ全てドイツ語への吹き替えです。日本で人気の漫画「ワンピース」のアニメがちょうどドイツのテレビで上映されていますが、登場人物は見事なドイツ語をしゃべっています。ジェームズ・ボンドも同様にドイツ語をしゃべります。日本では、原語で上映・放映し、日本語の字幕をつける方が多いのではないのでしょうか。たとえ日本語吹き替えの場合でも、「007」は「ダブル・オー・セブン」または「ゼロゼロセブン」と言うのでしょうか。「零零七」とは言いませんね。し・か・し。ドイツでは、この「007」もドイツ語読みするのです。数字の「0」はドイツ語で「ヌル」、「7」は「ジーベン」と読みます。つまり「007」は、なんと「ぬるぬるジーベン」となるのですよ!

筆者紹介

稲積 朋子(いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、新樹グローバル・アイピー特許業務法人及びGIP Europe Corp.所属。

1997年、新樹グローバル・アイピー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス)設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。

趣味は、山登り、ほーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。